

□年

□組

□番 名前

□

● 次の文の一部分の主語は何ですか。最も適切なものを、記号で一つ選びなさい。  
わたしの 弟は 一人で 東京に 行った。

- ① わたしの                      ② 弟は                      ③ 一人で                      ④ 東京に

□

やさしい 風が さわやかな 空気を 運んだ。

- ① やさしい                      ② 風が                      ③ さわやかな                      ④ 空気を

□

● 次の文の□部分が直接かかっているのはどこですか。最も適切なものを、記号で一つ選びなさい。  
さわやかな風が砂浜すなはまに吹いている。

- ① 風                      ② 砂浜                      ③ 吹いて                      ④ いる

□

家の庭に赤い花が咲いた。

- ① 家                      ② 赤い                      ③ 花                      ④ 咲いた

□

● 次の文を文節に分けたとき、正しいものを記号で一つ選びなさい。  
私は、ずっと遠くまで旅をつづけたいと思った。

- ① 私は、／ずっと遠くまで／旅をつづけ／たいと／思った。

□

- ② 私は、／ずっと／遠くまで／旅をつづけたいと／思った。

- ③ 私は、／ずっと／遠くまで／旅を／つづけ／たいと／思った。

- ④ 私は、／ずっと／遠く／まで／旅を／つづけたいと／思った。

● 次の文を単語に分けたとき、正しいものを記号で一つ選びなさい。

先生は窓から景色をながめていた。

- ① 先生／は／窓／から／景色／を／ながめて／いた。

□

- ② 先生／は／窓／から／景色／を／ながめて／いた。

- ③ 先生／は／窓／から／景色／を／ながめて／いた。

- ④ 先生／は／窓／か／ら／景色／を／ながめて／いた。

□ 年 □ 組 □ 番 名前 □

教材3-1(2)

言葉の知識

● 次の文の **これ** が指し示している内容として最も適切なものを選び、その番号を書きなさい。

\*秋が深まると、木の葉が紅葉します。 **これは**、葉に水分が届かなくなることから始まります。

- ① 秋
- ② 深まること
- ③ 木の葉
- ④ 紅葉すること

□

● 次の文の **それ** が指し示している内容として最も適切なものを選び、その番号を書きなさい。

\*私の部屋には古い絵が飾<sup>かざ</sup>ってある。 **それは**父が描<sup>えが</sup>いたものだった。

- ① 私
- ② 部屋
- ③ 古い
- ④ 絵

□

● 次の文の **あれ** が指し示している内容として最も適切なものを選び、その番号を書きなさい。

\*港から外国へと、客船が旅立った。 **あれ**には、私の友人が乗っているはずだ。

- ① 港
- ② 外国
- ③ 客船
- ④ 旅立った

□

● 次の文の **このような** が指し示している内容として最も適切なものを選び、その番号を書きなさい。

\*私は野球クラブに入っています。部員数は、三十二名です。冬の間の練習は厳しく、毎日、素振りを百回行いました。春が来たころには、 **このような**努力のおかげで、強いチームになりました。

- ① 野球クラブに入っていること。
- ② 部員数は、三十二名であること。
- ③ 毎日素振りを百回行ったこと。
- ④ 春が来たこと。

□

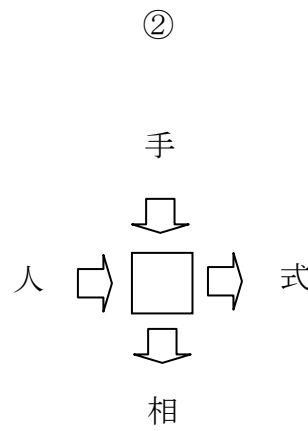
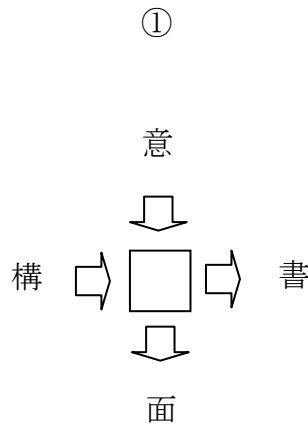
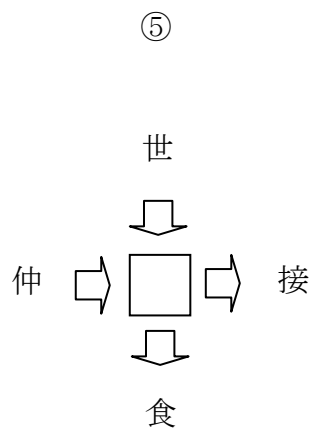
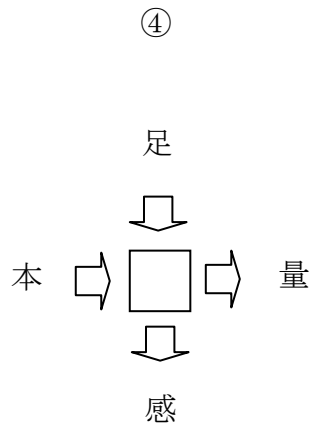
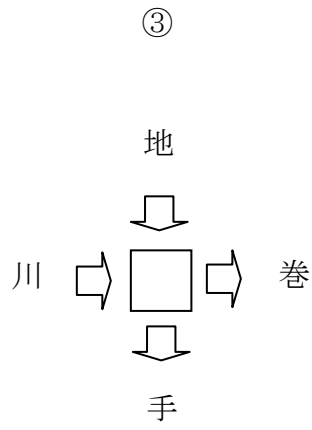
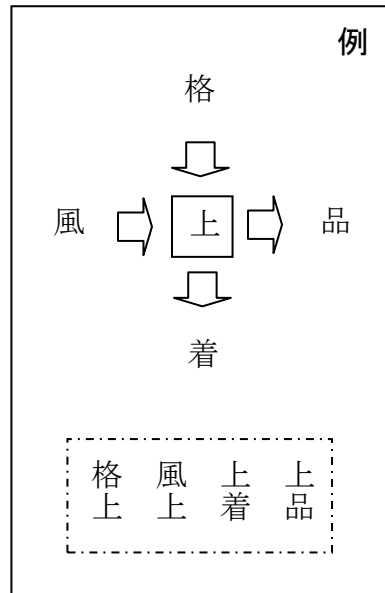
年

組

番

名前

○ 例にならって周りの漢字と矢印の方向に組み合わせ、二字の熟語を四つ作ります。空らん①～④にあてはまる漢字を一字答えなさい。



教材3(4)

言葉の知識

<input type="text"/>
年
<input type="text"/>
組
<input type="text"/>
番
名前

○ ステップ1 から、チャレンジしてみよう。

ステップ1

「言葉の単位」(意味や発音により分けられる言葉の「まとまり」のこと)は5つある。次の(1)～(5)の言葉の単位についての説明を  
あとの語群ア～エから選び、記号で答えなさい。

(1) 「文章」

(2) 「段落」

(3) 「文」

(4) 「文節」

(5) 「単語」

語群

- ア 言葉の意味を壊さないように、文節をさらに細かく分けたもの。それだけで使える言葉としては最小の単位。
- イ 文章を内容によって分けたひとまとまり。
- ウ 発音や意味のうえで不自然にならないように、できるだけ短く区切ったまとまり。
- エ ひとまとまりの事柄や考えを表した、ひと続きの言葉。書き言葉では、文の終わりに句点(。)が付く。
- オ 文が集まって、全体でまとまった内容を表したもの。

ステップ2

「文の成分」について、次の文章中(A)～(E)にあてはまる言葉をあとの語群ア～オからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

文を組み立てる部分となるそれぞれの文節が果たす役割を「文の成分」といい、五種類ある。「誰が、何が」を表す(A)、文の終わりにあることが多く、「どうする・どんなだ・ある・いる・ない・何だ」を表す(B)、他の文節を詳しく述べる働きのある(C)、文と文、言葉をつなぐ働きのある(D)、文の中で、他の文節とは独立した働きのある(E)がある。

A

B

C

D

E

語群

ア 修飾語

イ 述語

ウ 独立語

エ 主語

オ 接続語

**ステップ3**

次の文節に分かれている文について、あとの問いに答えましょう。

私は バラの 花を 彼に あげた。

(1) 述語はどれですか。一文節で答えましょう。

(2) 主語はどれですか。一文節で答えましょう。

(3) 述語の文節を修飾している文節(修飾語)を二つ答えましょう。

**ステップ4**

次の各文を文節に分け、区切り目に「/」を書きましょう。また、主語の文節には――を、述語の文節には――を引きましょう。

(1) 暑くなってきたので、私は半そでに着がえた。

(2) 彼女は、今年の市大会で優勝したバスケットボール部の部長だ。

(3) この本の中には、世界中の昔話がたくさんある。

**ステップ5**

次の各文を単語に分け、区切り目に「/」を書きましょう。

(1) 山の上に白い家がある。

(2) ドアの向こうから、フルートの美しい音色が聞こえる。

(3) 部屋へやの窓から、美しい山がはっきり見える。

年

組

番

名前

○ 行書で書かれた次の漢字の中から、「担」と同じ偏をもつものをもつものを選び、記号で答えましょう。

ア 相

イ

拝

ウ

独

エ

状

○ 次の漢字全てに共通する行書の特徴として最も適切なものを、次から選び記号で答えなさい。



ア 右払いを止めている。

イ 点を連続させている。

ウ 点画を省略している。

エ 横画が連続している。

教材 3-(6) 言葉の知識

年 組 番 名前

◆1 次の文の一部分の主語と述語の組み合わせとして、最も適切なものを次の中から選び、その番号を書きなさい。  
今年の 冬は、家族全員が かぜを ひきました。

- ① (主語) 今年の (述語) ひきました
- ② (主語) 冬は (述語) ひきました

- (主語) ひきました
- (述語) ひきました

- ③ (主語) 家族全員が (主語) かぜを
- (述語) ひきました

- (主語) ひきました
- (述語) ひきました

◆2 「言葉の単位」(意味や発音により分けられる言葉の「まとまり」)のことは五つある。次の(1)～(5)の言葉の単位についての説明をあとの語群ア～エから選び、記号で答えなさい。

- (1) 「文章」
- (2) 「段落」
- (3) 「文」
- (4) 「文節」
- (5) 「単語」

語群

- ア 言葉の意味を壊さないように、文節をさらに細かく分けたもの。それだけで使える言葉としては最小の単位。
- イ 文章を内容によって分けたひとまとまり。
- ウ 発音や意味のうえで不自然にならないように、できるだけ短く区切ったまとまり。
- エ ひとまとまりの事柄や考えを表した、ひと続きの言葉。書き言葉では、文の終わりに句点(。)が付く。
- オ 文が集まって、全体でまとまった内容を表したものの。

◆3 「文節」を五種類にわけたものを文の成分といいます。そのうち「どうする、どんなだ、ある、いる、ない、何だ」を表すものを次の中から一つ選び、その番号を書きなさい。

- ①主語 ②述語 ③修飾語 ④独立語 ⑤接続語

教材 3-1(7) 言葉の知識

年 組 番 名前

◆1 故事成語について説明した文中の( )にあてはまる言葉を、あとの語群からそれぞれ一つずつ選び、その番号を書きなさい。

故事成語とは、中国で起きた昔の出来事から生まれた言葉である。昔の出来事やエピソードを( A )、そこからできた言葉を( B )という。

【語群】① 故事 ② 故事成語 ③ ことわざ

◆2 次の故事から生まれた言葉は何か、後の語群から選び、番号で答えなさい。

A 【故事】蘇代(そだい)が燕(えん)の国の恵王(けいおう)に語った話。はまぐりが口を開けているとしぎという鳥が来てはまぐりに食いついた。

一方ではまぐりは自分の口を閉じてしぎのくちばしをはさんだ。こうして、はまぐりとしぎが互いに放そうとせず争っている間に、漁師があらわれて、簡単にはまぐりとしぎを捕まえてしまったということから、この語ができた。

【意味】両者があらずっている間に第三者が利益を横取りすること。

A B

B 【故事】崔林(さいりん)は、人々からはおろか者と言われていた。しかし、いとこの崔えん(さいえん)だけは、彼のことを「大きな鐘(かね)は、

そうそう簡単に作ることはできない。大きな才能もそれと同じで、完成までに長い年月がかかる。」と言った。崔林(さいりん)は成人すると、その才能をりっぱに開かせ、地位の高い人物になった。

【意味】将来、地位の高いりっぱな人物になる人は、若いときには目立たないが、年をとってから成功してりっぱになるということ。

C 【故事】楚(そ)の国に矛(ほこ)と盾(たて)を売る人がいて、自分の矛(ほこ)と盾(たて)とをほめて言った。「私の矛(ほこ)はどんな

固い盾(たて)でも突き通す。」また、「私の盾(たて)は、とても固く、どんな矛(ほこ)でも突き通せない」といつて自慢(じまん)した。ある人が言った。「おまえの矛(ほこ)でおまえの盾(たて)を突いたらどうなるのか。」

【意味】つじつまがあわないこと。

◎語群 ① 大器晩成(たいきばんせい) ② 矛盾(むじゆん) ③ 漁夫の利(ぎよふのり)